

# 日光から記載されたキクチクロコメツキについて

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

## Notes on *Ampedus kikuchii* (Coleoptera: Elateridae) Described from Nikko, Central Japan

Wataru SUZUKI

Summary. *Ampedus kikuchii* was described based on two males and five females collected from Nikko, central Japan (Suzuki, 1985). This species is easily recognized by the umblicated punctures on the pronotum and by the reddish black elytra. However, no additional specimens have been reported since the original description. In this short report, I briefly redescribed and illustrated based on the type material of the species.

キクチクロコメツキ *Ampedus kikuchii* は、1958 年 10 月 6 日に栃木県日光で菊池孝彦氏により採集された 2 雄 6 雌の個体に基づいて、Suzuki (1985) により命名記載された種である。国内に 100 種以上が知られるコメツキ属 *Ampedus* の中でも、本種はとて特徴のある種で、前胸背板を被う寝た毛と臍状の点刻、そして赤黒色の上翅により識別は難しい。しかし、本種が新種として記載されてから 30 年が経過しているのに、残念ながら本種に関する新たな情報はまったく得られていない。ここでは、採集者である菊池孝彦氏に最近うかがった情報を基に、原記載時には明らかでなかった詳しい産地や採集時の状況を紹介し、さらに本種の形態的特徴をあらためて示したい。本報告により、本種が再発見されることを期待したい。

本文を書くに当たり、本種の採集当時の様子をご

教示くださった、菊池孝彦氏に厚くお礼申し上げる。

### キクチクロコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *kikuchii* W. Suzuki, 1985

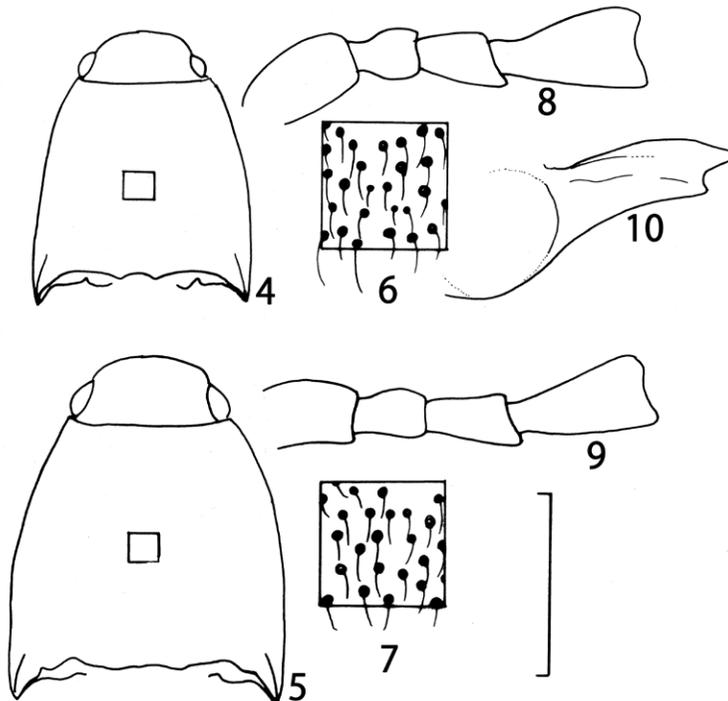
(Figs. 1–9)

*Ampedus* (*Ampedus*) *kikuchii* W. Suzuki, 1985: 82–84, figs. 5–9 (Japan: Nikko); Kishii, 1987: 149 (catalogue); Kankyôchô, 1995: 237 (list); Kishii, 1999: 68 (catalogue); Cate, 2007: 124 (catalogue).  
*Ampedus kikuchii*: Suzuki, 1989: 335 (list); Inaizumi, 2003: 191 (list).

検視標本：2♂5♀ (holotype, allotype, paratypes), Senjyôgahara, Nikko, Tochigi Pref., central Japan, 6. X. 1958, Takahiko Kikuchi leg.



Figs. 1–3. *Ampedus kikuchii* W. Suzuki, 1985, from Senjyôgahara in Nikko. 1, male (holotype), dorsal view; 2, ditto, lateral view; 3, female (allotype), dorsal view.



Figs. 3–9. *Ampedus kikuchii* W. Suzuki, 1985, from Senjyōgahara in Nikko; 4, 6, 8, 10: ♂ (holotype); 5, 7 & 9: ♀ (allotype). 4–5, head and pronotum, dorsal view. 6–7, punctuations on the central portion of pronotum; 8–9, basal four segments of right antenna; 10, prosternal process, lateral view. Scale: 1.6 mm for 4–5, 8–10; 0.5 mm for 6–7.

形態.

♂. 体長: 8.3–8.9 mm. 体幅: 2.4–2.7 mm. 体は細長く、平行状。体は黒色; 触角は茶色であるが、先端にいくに従い黒くなる; 上翅は肉眼では黒に見えるが、顕微鏡下では赤みを帯びる; 腹部第4・5節は1–3節に比べ明るく、暗い赤褐色となる; 脚は黒褐色であるが、跗節は明るい赤褐色となる。頭部は前縁が強く弧状を呈する。表面には臍状の小点刻で密に被われるが、前縁では無点刻となる。触角は11節の先端が前胸後角を超える程度で、第4節よりやや鋭く鋸歯状を呈する。触角3節は2節よりわずかに長い程度 (1.1:1.0); 4節は幅の1.72倍で、前2節をあわせた長さにはほぼ等しい (Fig. 8)。11節は垂菱形で、幅の約2.6倍に等しい。前胸背板は丸味を帯びた台形で、中央長は中央幅の1.12倍; 背面は前方では適度に膨隆するが、後方側縁部では平圧され、表面はやや密に明瞭な臍状の点刻で被われる (Fig. 6); 後角は短く、先端角度は約45度。前胸腹板突起は先端で「く」の字状に切れ込む (Fig. 10)。上翅は細長く、肩幅の約2.6倍; 両側はほぼ平行状であるが、基部3/5より丸まり、先方に狭くなる; 条線は明瞭。

♀. 体長: 9.4–10.3 mm. 体幅: 2.8–3.1 mm. 雄に似るが、より大きく、強壯。触角は雄より短く、11節の先端が前胸後角にかろうじて届く程度で、4

節より弱く鋸歯状を呈する; 第11節は丸味を帯びた垂菱形で、幅の約2.5倍に等しい。前胸背板の後角はやや幅広く、先端角度は約55度。上翅は、基部の約2.4倍に等しい。

分布. 本州 (日光)。

備考. 発見者である菊池孝彦氏に本種の採集時の状況をうかがったところ、「何分にも半世紀以上昔のことであるので、本種を採集したことはよく覚えていないが、朽木を崩したりして甲虫を採集した記憶があるので、おそらくその際に採集されたのではないか。標本に付けられたラベルには地名として "Nikko Tochigi" と記載されているが、より詳しい採集地は、「日光市の戦場ヶ原」。当時、戦場ヶ原には、スギのような丸太がまとまってあったので、おそらく、それを崩して採集した」ということであつた。材からまとまって採集されたのが10月6日で標高が1,400 mであることを考えると、新成虫がその後に野外に出現するとは考えにくい。一般に、コメツキ属 *Ampedus* の仲間は、夏から秋には成虫となり越冬し、翌年春以降に出現することが多いので、本種もそのような生活史を持つのかもしれない。今後、本種が再発見されることで、この辺の生態も解明されることを期待したい。

本種が発見された戦場ヶ原は、標高1,400 mの高層湿原であるので、本種が得られたスギのような

材は、そこに自生していたものではなく、外から持ち込まれたものかもしれない。戦場ヶ原は現在、栃木県日光市の日光国立公園内の特別保護地区に指定されているため、容易に調査することはできないが、局所的に生息している種とは考えられないので、日光周辺へ行かれる際は、上記の情報に注意をしながら調査をしていただきたい。

#### 引用文献

- Cate, P.C., 2007. Family Elateridae Leach, 1815 (-Cebrioninae, Lissominae, Subprotelaterinae). In: Löbl, I., & A. Smetana (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 94–207. Apollo Books, Stenstrup.
- 稲泉三丸, 2003. コメツキムシ科 Elateridae. 栃木県自然環境調査研究会昆虫部編, 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの

- 昆虫 II. pp. 177–206. 栃木県.
- 環境庁, 1995. 日本産野生生物目録 一本邦産野生動植物の種の現状—(無脊椎動物 II). 620 pp. 自然環境研究センター.
- Kishii, T., 1987. A taxonomic study of the Japanese Elateridae (Coleoptera), with the key to the subfamilies, tribes and genera. 262 pp, 12 pls. 自費出版.
- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (42): 1–144.
- Suzuki, W., 1985. On some Elateridae of the Far East (Coleoptera). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 17(1/2): 79–89.
- 鈴木 互, 1989. コメツキムシ科. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター・共同編集. 日本産昆虫総目録 I. pp. 327–345. 九州大学農学部昆虫学研究室, 福岡.

(2016年9月16日受領, 2016年12月13日受理)



### Catalogue of Formosan Tenebrionidae (Insecta: Coleoptera) [台湾産ゴミムシダマシ目録]

Kiyoshi Ando, Ottó Merkl, Ming-Luen Jeng,  
Mei-Ling Chan & Yasuhiko Hayashi  
Japanese Journal of Systematic Entomology,  
Supplementary Series (1), 112 pp.  
2016年3月3日発行

アジアのゴミムシダマシ科はまだ研究が進んでおらず、東南アジアはもちろん、日本からもいまだに大型種の新種が発表されている状況である。大図鑑も出版され、日本はようやくひと段落したようだが、台湾からはまだまだ新種が発見されるであろう。しかし、新種の発見と一口に言っても、いちばん難しいのは既知種の把握である。それにはまず正確な分類学的目録が必要である。

今回、安藤清志博士を筆頭著者として台湾産のゴミムシダマシ目録が出版された。2015年末までに出版された450種が網羅されており、最新の分類体系のもと、各種のシノニムリストと分布が示されている。特筆すべきは多数の種のタイプ標本の写真が図示されてい

ることである。この点で本書は単なる目録ではなく、図鑑の意味合いも持つ、より利用価値の高いものとなっている。

安藤博士は世界を代表するゴミムシダマシ科甲虫の権威であり、アジア産種に関する精緻な論文を継続的に出版されている。本書を見て感じたことは、「親切」と「気前がいい」である。分類学者のなかには、苦勞して集めたタイプ標本の写真を自身が抱え、自身の研究のみに使用する人が少なくない。しかし本書を見て、世界的な研究はそのようなケチケチしたものであってはならないということを教えられた。生物多様性解明を目的とした大きな国際貢献である。

現在、台湾にはゴミムシダマシを専門として精力的に研究している人はいなさそうだが、本書によって始めようという人も現れるだろうし、研究者ならずとも同定の手掛かりとして利用する人は多いだろう。本書は安藤博士が世界的研究者としての矜持を体現したものであるとともに(ご本人はそんなことは思っていないかもしれないが、見習うべきである)、未来のゴミムシダマシ研究者への応援歌ともいえるだろう。

(丸山宗利)

